

複数の保健医療福祉専門職の連携教育（インタープロフェッショナル教育、IPE）は、保健医療福祉サービスの効果的・効率的実践に不可欠であり、チーム医療システムの確立に寄与するものとして近年注目されている。これまでIPEの重要性は認識されてきたが、実際どのような形で進めてゆくかについてはなお議論がある。本特集では、内外のIPEに関する情報を提示していただき、連携教育の実践における現状と課題、展望について解説していただいた。

■連携教育の実践と課題（大嶋伸雄論文）

保健医療福祉専門領域における連携教育の本質とは、専門職全体のレベルアップを基盤にした対象者サービスの質的向上に他ならない。連携教育はさらに階層的機能として、高いレベルでの連携協働の実践、つまり複数の専門職をマネジメントするための教育、リーダーシップ教育も包含した新しい実践研究領域でもある。その原点には、専門職全体を俯瞰して捉えることのできる新世代の専門職教育としての連携教育が存在する。

■連携教育の実践と課題—理学療法学領域から（原 和彦論文）

障害をもつ人のリハビリテーションや急速に増加する虚弱高齢者への対応には、1つのサービスや職種で解決できないことが多い。そのため医療職として誕生した理学療法士の活動現場は、近年、病院や施設内にとどまらず、医療から福祉、保健領域の広範な領域での実践的展開が求められている。本稿では専門職連携教育を大学教育カリキュラムに導入した英国での取り組みや、埼玉県立大学での取り組みを中心に、その教育開発のコンセプトやカリキュラム、教育コース開発の実践例について紹介し、理学療法学領域からみた連携教育の課題について述べた。

■連携教育の実践と課題—看護学領域から（酒井郁子論文）

本稿では、国立総合大学の看護学部・医学部・薬学部が多年次積み上げ型必修科目として取り組む専門職連携教育プログラムの概要と特長を紹介する。そして看護学基礎教育の歴史と変化からみた専門職連携教育の現状と課題、および千葉大学看護学部のカリキュラムにおける専門職連携教育の位置づけと意義を述べる。最後に専門職育成としての看護学教育と専門職連携教育の関係について検討し、今後の課題について論述する。

■連携教育の実践と課題—昭和大学における学部連携 PBL チュートリアル（高木 康論文）

「チーム医療」の実践のための卒前教育として、医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部の学部連携 PBL チュートリアルを導入した。各学部学生の評価は良好であり、専門分野だけでなく、広い視点から医療を捉える考え方が身につく印象を受けた。シナリオや資源など改善の余地はあるが、将来の「真の医療チーム」の形成のためには、卒前教育で行う学部間連携 PBL チュートリアルは良好な方略の1つと考える。

とびらページの書道作品について（p.1029、書・解説：亀井法悦）

「根気を楽しむゆとりが欲しい」（自作）

絵の講習会の時、ある画家が受講生に「根気を楽しむ気持ちで描いてください」と言っていたのを思い出して、書いてみました。リハビリにもこの気持ちを持ちたいものです。2年にわたった私の担当も、今回で最後になりました。また、この12月で、リハビリを続けて丸3年になります。右手も順調に回復しておりますが、まだ作品を書くことはできませんでした。また、機会が与えられましたら、右手で存分に書いた作品も発表したい思います。その時まで失礼致します。ありがとうございました。